

1 単元名 火事からくらしを守る

2 単元の目標

火災から地域の安全を守る働きについて、消防署などの施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、消防署などの関係諸機関や地域の人々の相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

3 子どもと単元

単元について

＜安全な日常生活を守っているたくさんの人の働きと連携に気付く＞

本単元は、火災から地域の人々の安全を守る諸活動について、学習問題を追究・解決する活動を通して、関係諸機関や地域の人々が、火災発生時に被害を減らせるように工夫や努力をしていることや、緊急時に相互に連絡を取り合い、協力していることを理解することなどをねらいとしている。また、内容の取り扱いについては「緊急時に対処する体制をとっていること」と「防止に努めていること」のどちらかに重点を置きながら、いずれについても取り上げることとしている。消防署で働く人の仕事を調べることを通して、子どもたちにとって当たり前と感じられる安全な日常生活が、たくさんの人々の働きと協力によって守られているということに改めて気付くとともに、地域の一員として自分にできることは何かと考えることができる単元である。

＜見学・調査活動を通して、主体的に調べ、追究し、解決する＞

男鹿市では、火災に備えて近隣の潟上市（旧天王町地域）や大潟村と共同で組合を作って活動している。男鹿市には3つの消防分署、14の消防団が設置されている。また、校区には通信指令室のある消防本部、男鹿警察署、男鹿みなと市民病院、男鹿市役所などの関係諸機関があることから、見学や調べ学習などを通して、緊急時の消防署の備えや対応、関係機関や地域の人々との連携について、主体的に調べ追究していくことができる。そして、インタビューなどを通して、実際に働いている人の声を聞く、対話的な学びも期待できる。

学びを支えるために

＜解決への意欲を高め、対話を通して学びを深める＞

主体的な問題解決の仕方が身に付くように、導入で統計資料や写真、動画などを提示し、その中から生まれた疑問を基に学習問題を作る活動を取り入れる。また、一人一人が問題を自分事として捉え、解決への意欲が高まるように、予想を立てる過程を大事にするとともに、自分の生活と関連付けながら考える場を設ける。学習計画を立て、調べ、まとめていく中でさらなる疑問が生まれ、次時の問題へとつながる連続性のある学習にするために、学習過程を工夫する。そして、学習内容について現実感や親近感をもつことができるように、資料の読み取りや子ども同士の話合いだけでなく、見学やインタビューを通して実際に働いている人の声を聞く活動を充実させる。さらに、学びが深まるように、見学や話合いの視点を明確にしたり、学習したことを生活に生かしたりする場を設けたりする。

ICTの活用＜スマイルノートを使って、比較・検討する＞

見学や調べ学習を通して見付けたことを視点に沿って分類・整理するために、思考ツールに書き表す活動を取り入れる。付箋に書いてグループで共有したり、全体で比較したりするために、スマイルノートの協働的な学びの機能を活用する。また、自分では見付けることができなかった考えなどに「いいね」をタップすることで新たな気づきを生むこともできる。

学ぶ子どもたち

＜好奇心旺盛で意欲的だが、問題解決的な学習の進め方に課題のある子ども＞

9月に実施した意識調査では、95%の子どもが社会科の学習が好きと答えている。特に、見学したり調べたりする学習には、多くの子どもが興味をもって取り組んでいる。好奇心旺盛で、これまで知らなかったことや経験したことのないことに出会い、新しい知識や経験が増えることに大きな喜びを感じている。7月に学習した「はたらく人とわたしたちのくらし」では、問題を見付け、その解決に向けて調べ、自分の生活と関連付けながら話し合い、まとめるという学習の進め方を経験しているが、問題解決的な学習の進め方をさらに定着させていく必要がある。

＜タブレットPCを使って表現し、共有し、友達によさに気付く子ども＞

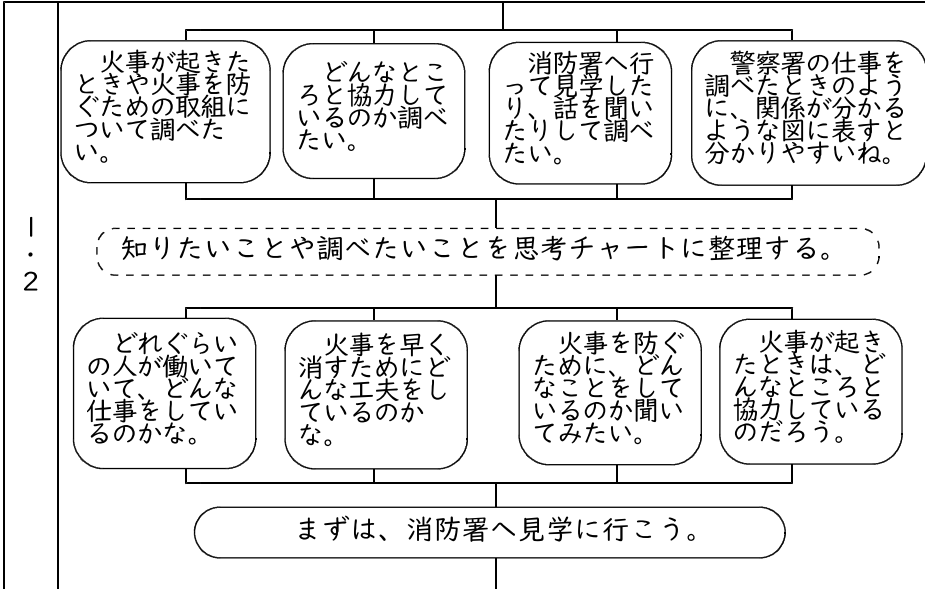
タブレットPCで気になったところを写真や動画に撮ったり、考えたことや調べたことを思考ツールに表したり、振り返りをスマイルノートに書いたりするなど、どんな場面でどのようにタブレットPCを使ったらよいか、判断できるようになってきている。また、共有の機能を活用して、友達の考えと自分の考えを比較することで、新たな気づきが生まれたり友達の考えのよさに気付いたりすることができるようになってきている。

4 指導計画（12時間）

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 消防施設・設備などの配置、消防署に よる緊急時の備えや地図などの情報 について調べたり、火災から地域の安全 を守るための理を解いて地図や文など ② 調べ、消防署の緊急時に火災の防 止に努めている。</p>	<p>① 消防施設・設備などの配置、消防署に よる緊急時の備えや地図などの情報 について調べたり、火災から地域の安全 を守るための理を解いて地図や文など ② 調べ、消防署の緊急時に火災の防 止に努めている。</p>	<p>① 火災から地域の安全を守るために、 消防署の緊急時に火災の防止に努 めている。</p>

…課題
…課題と対応したまとめ
…活動
…思考

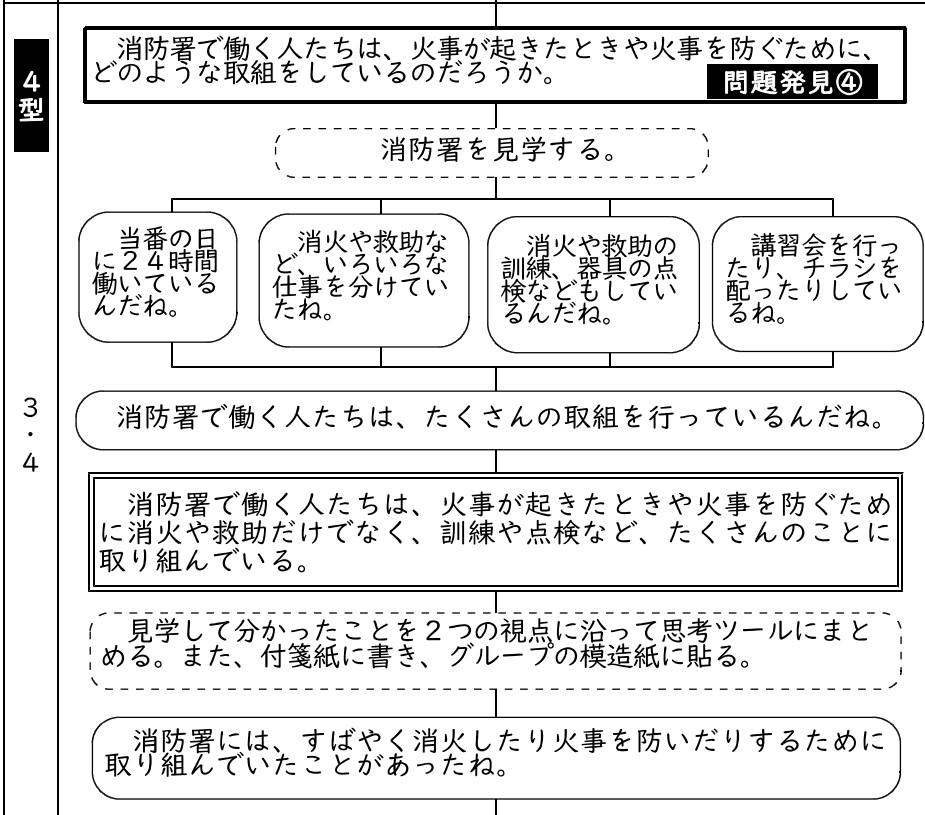
時	子どもの思考と活動の流れ	教師の支援と評価（方法）
<p>4型</p> <p>1・2</p>	<p>事件や事故が起きたとき、いろいろな人が協力して安全を守っていたね。火事が起きたときには、どんな人が働いているのかな。</p> <p>消防の人が来て、火を消すよ。 けが人がいたら救急車も来らんじゃない。 警察署の人協力しているよ。 市役所の近くで火事があったときぼくのお父さんも協力したよ。</p> <p>火事はいどのくらい起きているのだろう。増えているのかな、減っているのかな。</p> <p>ぼくたちの周りでは、火事はいないから、火事を見てから減っていると思う。 秋田県は減っているけど、増えていると思う。 火事のスエを見よ。</p> <p>グラフを見て話し合い、学習問題を作り学習計画を立てよう。</p> <p>火事の件数が秋田県も全国も減ってきているのはなぜだろう。 火事が起きないように何かしているのかな。 全焼の件数も年々減ってきているね。全焼する前に、消火しているということかな。</p> <p><b>（学習問題）</b> 火事が起きたときや火事を防ぐために、だれが、どんな働きをしているのだろうか。 <b>問題発見④</b></p> <p>学習問題について予想する。</p> <p>消防署の人がすばやく消火するために工夫しているんじゃないかな。 消防署の人は、火事を防ぐための呼びかけもしていると思う。 火事のニュースをみたとき、映っていたよ。 事件や事故をうまうま防いで、地域の人と協力している。</p> <p>どんなことをどのように調べ、どのようにまとめるかを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際の火事の様子をイメージできるように、動画や写真を提示する。</li> <li>・ 子どもたちから問題意識や問いが生まれ、調べたいという意欲につながるように秋田県と全国の火事の件数や全焼の件数を表した棒グラフを提示する。</li> <li>・ 「なぜ早く消火できるのだろうか。」という問いから学習問題へとつながるように、住宅が全焼するまでにかかるおおよその時間を提示する。</li> <li>・ 子どもたちの力で単元全体を貫く学習問題を作ることができるよう、「だれが」「なぜ」「どんな」「どのように」「何のために」などのキーワードとなるカードを提示する。</li> <li>・ 一人一人が問題を自分事として捉えることができ、また気づきや問いが生まれるように、予想を立てる過程を大事にする。</li> <li>・ 主体的に学習計画を立てて調べ方（方法）や調べること（内容）、まとめ方を考えることができるように、前単元の学習の仕方を想起できるようにする。</li> </ul>



・ **ICTの活用** 知りたいことや調べたいことが明確になるように「火事が起きたときに」「火事を防ぐために」という2つの視点に沿って思考ツールに整理する場を設ける。

[思考・判断・表現] ①  
(発言分析・ノート分析)

[主体的に学習に取り組む態度] ①  
(発言分析・ノート分析)

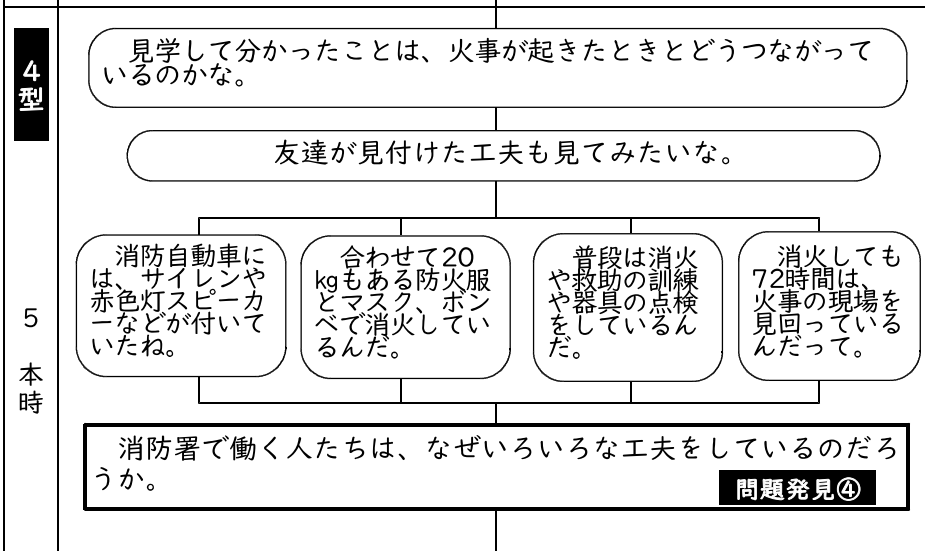


・ 自分たちで取組の目的や意義について考えることができるように、取組の事実だけを伝えてもらうことを事前に消防署の方と打ち合わせしておく。

・ **ICTの活用** 気になったところを記録として残しておくことができるように、一人一人がタブレットPCを持つようにする。

・ **ICTの活用** 「火事が起きたとき早く消火するために」「火事を防ぐために」という2つの視点に沿って思考ツールにまとめ、その後のグループでの活動につなげるために、付箋紙に書く場を設ける。

[知識・技能] ①  
(発言分析・シート、見学メモ分析)



・ **ICTの活用** 見つけた工夫が明確になるように、事前に模造紙に貼った付箋紙を話し合いながらグルーピングしておく。

・ **ICTの活用** 友達の見つけた工夫を共有できるように、自由に閲覧できる機能を活用し、自分と比較しながら見たり、気付かなかった工夫に「いいね」をタップしたりする活動を取り入れる。また、もっと詳しく知りたいと思ったら、他のグループに直接聞きに行くことを確認する。

1  
2

4  
型

3  
4

4  
型

5  
本  
時

5  
本時

なぜサイレンを鳴らしたり赤色灯を回したりするのかわからない周りを空けてもらうためだね。

なぜ24時間働いているかというところ、いつ火事が起きてもすぐ現場に行けるようにするためだね。

なぜ防火服が1200度の熱に17秒間耐えられるようになったのかという点、炎や熱の現場で安全に活動するためだね。

なぜ普段から訓練や点検をしているかというところ、安全に活動できるようにするためだね。

なぜ72時間現場にいられるのかという点、火事現場で出た火を見回すために確認する必要があるためだね。

消防署で働く人たちは、はやく、安全に、確実に消火するために、いろいろな工夫をしている。

消防署の人たちは、どのような思いで働いているのかな。話を聞いてみよう。

消防署には通信指令室もあったけど、そこにはどんな働きがあるのかな。

- ・ 焦点化した話合いができるように「何のために」「工夫がなかったら」という視点を示す。
- ・ 根拠を明確にして考えることができるように、それぞれの工夫がイメージ表などできる写真、グラフや表などを提示する。
- ・ 課題に沿ってまとめることができるように、全体でキーワードを考えてから、各自がキーワードを使ってまとめる場を設ける。
- ・ 必要に応じて使うことができるようにまとめを書くシートを用意する。
- ・ 働く人の思いに触れることができるように、消防署の方から話を伺う場を設ける。

[知識・技能] ①  
(発言分析・シート、ノート分析)

4型

消防署を見学したときに、119番にかけた電話は通信指令室につながり、そこからいろいろな所へ連絡がいくと言っていたね。

119番に電話をかけると、なぜ通信指令室につながるのだろうか。 **問題発見④**

通信指令室からそれぞれのところに、何のために連絡がいくのだろうか。

予想を共有し、視点に沿って話し合う。

消火するためには、まず消防署に連絡がいくと思う。

警察署には交通整理をし、連絡がいくんじゃないかな。

水道局には水をたくさん出してほしいと連絡がいくと思うよ。

ガスに火がつくと危ないから、ガスは止めよう。

- ・ 消防署見学の後、消防署の方から出された問題「それぞれの機関に何のために連絡がいくのか」についての予想を共有できるように、付箋紙に書き、グループの模造紙に貼っておく。

- ・ **ICTの活用** 予想を共有できるように、スマイルノートの自由に閲覧できる機能を活用する。

6

なぜ、通信指令室に最初に連絡が行くのだろうか。通信指令室はどんな役割をしているのかな。

通信指令室から、関係のある所と連絡がとれているんだね。

通信指令室が中心になって、火事に対しては、すばやく対応できるんだね。

みんなで協力してはやく火事を消すようにしているんだね。

すばやく安全に消火するために働いているのは、消防署だけじゃないんだね。

- ・ 焦点化した話合いができるように、「何のために」「どのような仕事をしているか」という視点を示す。

- ・ 課題に沿ってまとめることができるように、全体でキーワードを考えてから、各自がキーワードを使ってまとめる場を設ける。

すばやく安全に消火するために、通信指令室が中心になって、関係のある機関に連絡をして協力できるようにしているから。

火事をすばやく確実に消すための工夫は、分かったね。消防署には、他にどんな工夫があったらう。

[知識・技能] ①  
(発言分析・シート分析)

前の時間は、はやく消火するための取組について考えたね。今日はその他の取組について考えたい。

友達が見付けた工夫も見てみたいな。

消防署には予防課というところがあった。

学校やガソリンスタンドなどに立ち入り検査を行っている。

消火するだけでなく、火事の原因を調べると言っていたね。

チラシを作って各家庭に火災報知器の設置を呼びかけていた。

消防署で働く人たちは、なぜいろいろな工夫をしているのだろうか。

問題発見④

火事が起きないが、よ一番大切な消防署の人の大事な事なんだね。

消火設備がきちんと被るきかないと定期的にかから検査しているんだね。

火事の原因が分かれば、地域の人にとのよう原因を知らせて防火を呼びかけられるね。

学校にもチラシが来た。火災警報器は各家庭に必ず設置しなければいけなかったって。

消防署で働く人たちは火事をはやく消す以外に、立ち入り検査をしたり、チラシを作ったり講習会を開いたりして、火事を防ぐための工夫をしている。

消防署以外でも、はやく消火したり、防火したりする取組があるのかな。

ICTの活用見付けた工夫が明確になるように、事前に模造紙に貼った付箋紙を話し合いながらグルーピングしておく。

ICTの活用友達の見付けた工夫を共有できるように、自由に閲覧できる機能を活用し、自分と比較しながら見たり、気付かなかった工夫に「いいね」をタップしたりする活動を取り入れる。

焦点化した話し合いができるように、それぞれの工夫の意義やくらしを守ることとのつながりという視点を示す。

それぞれの工夫がイメージできるように、子どもたちが撮った写真を提示する。  
課題に沿ったまとめとなるように、全体でキーワードを考えてから、各自でキーワードを使ってまとめるようにする。

[知識・技能] ①  
(発言分析・シート、ノート分析)

学校だけでなく、通学路にも消防に関係のある施設・設備があったね。

わたしたちのまわりには、どのような消防の施設・設備があるのだろうか。

問題発見④

学校の中の消防の施設・設備を写真にとって地図上に表し、共有する。

教室や特別教室の天井に火災報知器があったよ。

学校の階段の所に防火とびらがあつたよ。

ふれあい広場の階段の所に、消火器があつたよ。

学校のプールの水も消火に使っていた。

地域にある施設・設備を地図をもとに調べ、思考ツールにまとめて共有する。

通学路にはたくさんの消火栓がある。

防火水槽もあつた。

防火水槽という看板もあつた。

消火栓は、同じような間隔で設置されている。

身の回りにある施設・設備について、視点に沿って話し合う。

なぜこのような場所に消防の施設・設備があるのだろうか。くらしを守ることとのようにつながっているのかな。

効率的に調べることができるよう、グループで担当箇所を分担する。

ICTの活用記録として残しておくことができるように一人一人がタブレットPCと校舎内の地図を持って活動する。

ICTの活用他のグループの見付けた消防の施設・設備とその場所を共有できるように、自由に閲覧できる機能を活用する。

地域の消防施設や設備を調べることができるよう、地域にある消防の施設・設備がかかれた地図を用意する。

焦点化した話し合いができるように、それぞれの消防の施設・設備の意義やくらしを守ることとのつながりという視点を示す。

8・9

地域に消火栓があるから、火事でも消火できるね。  
 火事に備えて、消防の施設や設備が、地域にあるんだね。  
 火事などの災害に備えられているんだね。  
 看板やマシナリなど、見やすいようにしてあるんだね。

わたしたちの周りには、消火栓や防火水槽、火災報知器などのさまざまな消防の施設・設備があり、避難場所も決められている。

地域には消防団の倉庫もあるけど、いつもは人がいないね。いつ、どんな活動をしているのかな。消防士とどこが違うのだろう。

[知識・技能] ①  
(発言分析・シート、ノート分析)

4型

消防団の資料を見ながら、消防士との違いや似ているところについて話し合う。

消防団の人と消防士は服装が違うね。  
 消防士と同じように、火事の現場で消火活動をしているね。  
 消防士と同じように、訓練や点検もしているのかな。  
 僕のお父さんは消防団に入っているけど、普段は警察官だよ。

地域の消防団では、どのような取組を行っているのだろうか。  
**問題発見④**

消防団の取組みを予想し、資料や家族から聞いたことを基に調べる。付箋紙に書いてグループの模造紙に貼り共有する。

消防署の人と同じように消火や救助の仕事も行うんだね。  
 火事に備えて器具の点検や消火訓練もしているんだね。  
 家庭の見回りや防火の呼びかけもしているね。

なぜ消防署があるのに消防団が必要なのだろう。どんな気持ちで活動しているのだろう。

10

消防署の人に協力しているんじゃないかな。  
 火事が起きたときに、すぐにつけられると思う。  
 消防署の人より、地域のことを知っているんじゃないかな。  
 住んでいる地域を守りたいという気持ちで働いていると思う。

資料を見て考え、話し合う。

消防団が消防署の人と協力して、地域を守ってくれているんだね。  
 地域に消防団があれば、火事が大きくならないかな。  
 消防団の人は、道路のこともよく知っているから、このこと知っているかな。  
 自分たちの町は、自分たちで守ると誇って、自分たちで取り組んでいる。

消防団員の話聞く。

地域の消防団では地域の人が集まり、消防署と協力しながら消火や救助活動をしたり、訓練や点検、防火を呼びかけたりしている。

火事からくらしを守るために、たくさんの方が働いているんだね。それぞれの人たちはどんなふうに関わっているのかな。

・消防士と消防団の比較が容易にできるように、2つの写真を並べて提示する。

・ICTの活用見つけた取組を共有できるように、自由に閲覧できる機能を活用する。

・考えを深めるために、消防署員と消防団員の数を比較する表や消防署の場所と消防団のある地域を表した男鹿市の地図、火災が発生してから燃え広がるまでの時間を表した図などを提示する。

・自分たちの考えたことや話し合ったことの成果が実感できるように、最後に消防団員の方から話を伺う活動を取り入れる。

[知識・技能] ①  
(発言分析・シート、ノート分析)

たくさんの人たちがどんなふうに協力し合っているのか、図にかくと分かりやすいね。

火事が起きたときや火事を防ぐために、誰がどんな働きをしているのだろうか。 **問題発見④**

関係図は、どのようにかくと分かりやすいかな。

図の中心にかいた方がよい施設は何だろう。

施設・設備の名前だけでなく、何をキーワードで書くといい。

言葉だけでなく、写真や絵を貼ると分かりやすいね。

どのように結び付いているか、線で結ぶといいね。

これまでに調べた火事からくらしを守る人々の活動を関係図にまとめ、全体で共有する。

完成した関係図を見て、気付いたことを視点に沿って話し合う。

それぞれの機関は、何のために、どのように結び付いているのかな。わたしたちのくらしは、どのように守られているのだろう。

通信指令室を中心に、皆さんの協力ができているね。

火事のと きは、市企業や電力会社、消防局も協力したんだね。

消防団の人は、地域の一員として協力してくれていたんだね。

たくさんの人たちがわたしたちを守ってくれているから、安心して暮らせたんだね。

火事が起きたときや火事を防ぐために、消防署などの関係機関は連携して火事に備えたり、地域の人と協力しながら防火に努めたりしている。

火事からくらしを守るために、たくさんの人が協力していたね。火事の件数をもっと減らすために、ぼくたちにもできることはないかな。

・ **ICTの活用** 関係図のかき方を想起できるように「事故や事件からくらしを守る」の学習で各自が作成した関係図を振り返る。

・ **ICTの活用** お互いの作成した関係図を共有できるように、自由に閲覧できる機能を活用する。自分の作成した関係図と比較したり、「いいね」をタップしたりする活動を取り入れる。

・ 「事故や事件からくらしを守る」の学習で作成した関係図と比較しながら、焦点化した話合いができるように、話合いの視点「何のために、どのように結び付いているのか」「わたしたちのくらしがどのように守られているのか」を示す。

[知識・技能] ①  
(発言分析・シート、ノート分析)

[思考・判断・表現] ②  
(発言分析・シート、ノート分析)

火事を減らすために、何かできることはないかな。

火事からくらしを守るために、地域の一員として自分にできることはないだろうか。 **問題発見④**

学習してきたことや火事に関する資料、家で調べたことを基にして考え、思考ツールに整理する。

友達の取組も見てみたいな。

消火器の使い方を覚えたい。

毎日コンロを使うお母さんに、防火を呼びかけたい。

家族でプラグやコンセントをチェックして掃除しよう。

地域に住むお年寄りに防火を呼びかけたい。

地域の消防団の訓練の様子を見学したい。

決めた取組を共有し、視点に沿って話し合う。

・ **ICTの活用** 友達の取組を共有できるように、スマイルノートの自由に閲覧できる機能を活用する。自分の取組と比較したり、「いいね」をタップしたり、直接聞きに行ったりする活動を取り入れる。

・ その取組が何を根拠にしたものなのかを明確にして話し合うことができるように、「火事の資料」「家庭の生活」「地域の様子」などのキーワードを提示する。

何のために、誰のために行うのだろう。火事からくらしを守ることとどのようにつながっているのだろう。

たばこが原因の火事は死者数が多いからお父さんに防火を呼びかけたい。

コンロは、出火原因の第1位で毎日使う物だから、着火などに気を付けておきたい。

地域にはお年寄りが多いため、災害報知器の設置を呼びかけるチラシを作りたい。

話し合いを基に、自分の取組がどのように変わったかを書き、今日の学びを振り返る。

〇〇さんのように家族みんなでできる防火チェックをして、何に気を付けたらよいか話し合いたい。

呼びかけるだけでなく、いつでも見られるようにポスターを作りたい。

できるだけたくさんの方に防火を呼びかけたいから、チラシを作りたい。

ぼくのおじいさんも消防団に入っているから、訓練の様子を見学して話を聞きたい。

自分の決めたことにさっそく取り組んでみよう。

- ・防火の取組とくらしを守ることを結び付けることができるように、何のために、誰のために行うのかを全体で話し合う時間を確保する。

- ・ **ICTの活用** 自分の学習への取組を価値付けることができるように、振り返りの観点を示す。お互いの振り返りを共有できるように、スマイルノートを活用する。

[主体的に学習に取り組む態度] ②  
(発言分析・ノート分析)



5 本時の実際 (本時 5 / 12) **4型**

(1) **ねらい**

消防署の火事への備えや対応について、見学したことを基に、そこで働く人たちの工夫などを考えることを通して、すばやく、安全、確実に消火できるように進められていることを理解することができる。

(2) **展開**

子どもの思考と活動の流れ	教師の支援と評価方法等
<p>見学して分かったことは、火事が起きたときとどうつながっているのかな。</p> <p>友達が見つけた工夫も見てみたいな。</p> <p>消防自動車には、サイレンや赤色灯スピーカーが付いていたね。</p> <p>合わせて20kgもある防火服とマスク、消火しているんだ。</p> <p>普段は消火訓練の点検や器具の点検をやっているんだ。</p> <p>消火しても72時間の現場を見回っているんだ。</p> <p>消防署で働く人たちは、なぜいろいろな工夫をしているのだろうか。 <b>問題発見④</b></p> <p>なぜサイレンを鳴らしたり赤色灯を回したりするのかというと、周りの車に知らせて道を空けてもらうためだね。</p> <p>なぜ24時間働いているかというと、いつ火事が起きてもすぐに現場に行けるようにするためだね。</p> <p>なぜ防火服が1200度の熱に17秒間耐えられるようになっていくかというと、炎や熱から身を守り、火事の現場で安全に活動するためだね。</p> <p>なぜ普段から訓練や点検をしているかというと、いざというときに確実に活動できるようにするためだね。</p> <p>なぜ72時間火事の現場を見回っているかというと、後から火が出ないように確実に消えたと確認するためだね。</p> <p>消防署で働く人たちは、はやく、安全に、確実に消火するために、いろいろな工夫をしている。</p> <p>消防署の人たちは、どのような思いで働いているのかな。話を聞いてみよう。</p> <p>消防署には通信指令室もあったけど、そこにはどんな働きがあるのかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>ICTの活用</b> 見つけた工夫が明確になるように、事前に模造紙に貼った付箋紙を話し合いながらグルーピングしておく。</li> <li>・ <b>ICTの活用</b> 見つけた工夫を共有できるように、自由に閲覧できる機能を活用し、自分の見つけた工夫と比較しながら見たり、気付かなかった工夫に「いいね」をタップしたりする活動を取り入れる。また、もっと詳しく知りたいことがあったら、直接聞きに行くことを確認する。</li> <li>・ <b>ICTの活用</b> 問題を自分事として捉え解決への意欲が高まるように、一人一人が予想を立て、全体で共有する活動を取り入れる。</li> <li>・ 焦点化した話し合いができるように「何のために」「工夫がなかったら」という視点を示す。</li> <li>・ 根拠を明確にして考えることができるように、それぞれの工夫がイメージできる写真、グラフや表などを提示する。</li> <li>・ 課題に沿ってまとめることができるように、全体でキーワードを考えてから、各自がキーワードを使ってまとめる場を設ける。</li> <li>・ 必要に応じて使うことができるようにまとめを書くシートを用意する。</li> <li>・ 働く人の思いに触れることができるように、消防署の方から話を伺う場を設ける。</li> </ul> <p><b>[知識・理解]</b>  <b>発言分析・ノート分析</b>          集めた情報を読み取り、消防署で働く人たちは、火事が起きたときに備え、すばやく安全に確実に消火できるように、様々なことを工夫して行っていることを理解している。</p>